

札幌市立屯田小学校の取組【雪に関する教育課程】

1 研究のねらい

スキー学習や雪を活用した学習を通して、雪に親しみ、自然と共生しようとする心情や、地域の特色と人々の暮らしに対する知識をもち、ふるさと札幌でよりよく生きていくための態度を育てる。

2 取組内容

(1) 学校としての取組

① 「さっぽろっこ雪かき汗かきチャレンジ」への取組

前年度に引き続き、児童が雪に親しみ、冬季間に体を動かし、鍛えることで体力向上と運動する習慣を身に付けることをねらいとし、「さっぽろっこ体力向上推進事業 雪かき汗かきチャレンジ」に4～6年生の児童が取り組んだ。自宅や自宅周辺の集合玄関やゴミステーションなど公共性の高い場所を雪かきすることで、地域に貢献しようとする心情を育てたいと考えた。自分から雪かきをする児童が増え、着実に意識が高まっている。



② 保護者と先生の会による取組

児童が雪に親しむことができるように、保護者と先生の会「おやじの会」で、学校正面玄関前に雪像とスノーキャンドルを作成した。雪像とスノーキャンドルに触れることで、雪に親しむことに加え、低学年の雪像づくりや雪を生かした遊びに活用したり、保育園との交流で年下の子に遊び方を教えてあげたりすることに活かしていけると考えた。また、保護者・児童・学校が触れ合う機会としての重要な役割も果たしている。



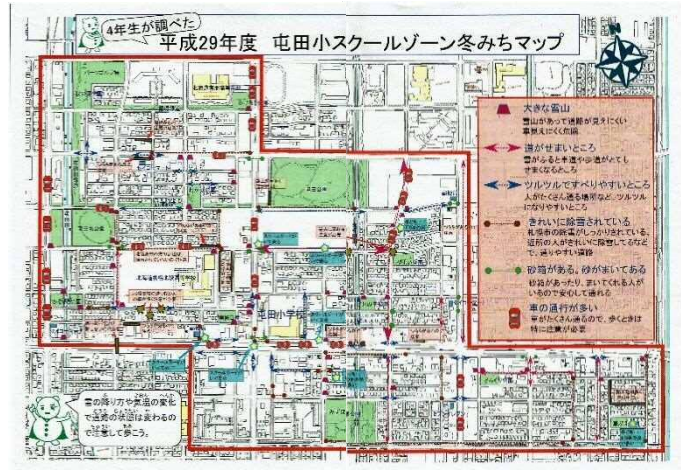
(2) 各学年としての取組～4年社会科「雪とくらす」 総合「雪について詳しくなろう」～

① 土木センター職員による出前授業

社会科の「雪とくらす」では、土木センター職員による出前授業を通して、札幌市の除排雪に携わる人々の苦労や工夫に気付き、自分たちにもできることについて考えることをねらいとした。12月の体験学習では、除雪に使う重機に乗る体験をすることで、除雪車には見えない範囲があることを実感し、安全への意識を高くもつことができた。



1月の出前授業では、前回の学習と結び付けて考え、冬の通学路についての「スクールゾーン（通学路）危険場所マップ作成」に向けての説明と制作活動に取り組んだ。安全な場所と危険な場所について考えることで、たくさんの人々の力によって安全な生活が保たれていることに気づき、自分たちでできることを考えて実践に移そうとする意識が高まった。



② 雪をテーマに調査活動

総合的な学習の時間「雪について詳しくなろう」では、これまでの学習経験や生活経験から、雪をテーマに個々に関心をもったことを課題に設定して、調査活動に取り組んだ。学校図書館や ICT を活用して調べた情報を基に、札幌の特色である雪や雪と共に生きる人々の工夫、環境に配慮した生活などについて考え、まとめたことを発表し学び合った。

3 成果と課題

(1) 成果

土木センター職員からの札幌市の除雪に関する情報が有効で、児童が問題意識をもつことや、課題を設定することに役立った。「スクールゾーン（通学路）危険場所マップ作成」の活動により、児童の冬道に対する安全意識を高めることにつながった。活動にはグループで取り組ませたことにより、一人では気付くことのできないことに気付いたり、考えを深めたりすることができた。また、調べ活動でインターネットを活用する際には、「北海道雪たんけん館」をメインとして情報収集に取り組ませることで、児童が課題に合った情報を確実に収集できた。この学習を通して学んだことを自分事として捉え、登下校時など、日々の生活に活かしていこうとする態度を養うことができてきている。

(2) 課題

安全への意識の向上という点では、一定の成果があったと評価できるが、学校として、自然と児童が外で遊びたくなるような取り組みや工夫が必要である。今年度は、昨年度購入したスノーチューブを活用し、外で遊ぶ楽しさを感じられる機会をつくっていく。外で遊ぶ経験を積み重ねていくことで、雪をより身近に感じ、雪に親しむ子どもを育てていきたい。